

## 審査の結果の要旨

氏名 中坪 太一郎

統合失調症の認知機能障害は、患者の社会機能と重要な関連があり、その点で疾病の中核的症候と考えられるようになってきている。しかし、認知機能障害と社会機能、特に家族関係との関連性に注目した支援方法は、これまで提案されていない。そこで、本研究は、認知機能障害が家族に及ぼす影響を検討し、その結果に基づき、患者に加えて家族にも働き掛けることで再発を防ぐ心理社会的プログラムを新たに提案することを目的としたものである。論文は、研究の意義と目的を示す第1部、統合失調症の発症によって患者の家族に生じる反応を検討する第2部、統合失調症の認知機能障害と家族の感情表出の関連性を検討し、心理社会的観点から統合失調症の再発モデルを提案する第3部、再発モデルに基づくプログラムを試験的に実施する第4部、研究の成果をまとめた第5部から構成される。

第1部では、第1章で統合失調症研究の概要を整理し、第2章で認知機能障害を軸として生物学的理解と心理社会的理解を結びつける臨床心理学的方法の意義を論じた上で、第3章で本研究の目的と構成を示した。

第2部では、第4章で統合失調症の家族研究を概観し、家族支援の重要性を示し、次に第5章で家族の成員が統合失調症を発症した場合に家族がたどるプロセスを質的研究法によって分析し、「正常と異常の併存」を契機として生じる“患者に対する期待と不安”が重要な意味をもつことを明らかにした。第6章では、さらにその期待を綿密に分析し、患者への期待、社会への期待、自分への期待の3カテゴリを抽出し、それらが家族を動かす動機づけや心理的支えとなり、病気への対処行動を生み出す要因となることを示した。

第3部では、第7章で統合失調症の認知機能の研究を概観した上で、ワーキングメモリに関する実験研究を行った結果、健常者との間で有意差がみられ、統合失調症における認知機能障害の重要性を確認した。第8章では、認知機能障害が家族に与える影響を調査するため患者と家族に質問紙調査を実施し、その結果認知機能障害と家族の感情表出に関連があること及び認知機能障害の程度と家族の期待が感情表出に影響を与える要因となっていることを明らかにした。その成果に基づき第9章では、認知機能障害→社会機能低下→家族の高い感情表出→再発に至るとする、統合失調症の心理学的再発モデルを提案した。

第4部では、再発モデルを受けて再発予防プログラムとして第10章で統合失調症患者の「認知機能改善療法」を、また第11章では「認知機能障害への理解に基づく家族心理教育プログラム」を作成し、試験的に実施し、事例研究によってその有効性を検討した。

第5部では、第12章で研究の知見をまとめ、第13章で今後の課題を示した。

本論文は、統合失調症患者の家族を対象とした質的研究に加え、量的研究で明らかとなった患者の認知機能障害と家族の感情表出の関連性に基づき再発予防プログラムを提案し、実践による検討を行った点で特に意義が認められる。よって、本論文は、博士（教育学）の学位を授与するに相応しいものと判断された。